

事例 27 「木育」美術館へシンボルツリーを供給

(中部森林管理局 木曽森林管理署)



- 長野県木曽郡王滝村 氷ヶ瀬土場
- 材を保護しながらトラックへ積み込む様子
(令和4年10月)



- 長野県木曽郡木曽町(きそまち)
- シンボルツリー展示の様子
(令和4年10月)

木曽森林管理署では、令和4年11月に長野県木曽郡木曽町に開館した木曽おもちゃ美術館のシンボルツリーとして木曽ヒノキの特殊材を供給しました。

この美術館は、木の魅力や木曽の文化を伝える美術館として木曽町が設立したもので、木曽郡内の木材がふんだんに使われています。

木曽町より、美術館のシンボルツリーとして「長さ6m、末口径40cm、1mの枝が四方に均等に出ている木曽ヒノキ」を供給してほしいとの要望を受け、約半年間かけて探し出し、事業者の協力のもと太い枝が折れないよう工夫しながら伐採し、丁寧な運材・運搬により要望に合致する木材を準備しました。

美術館入口に設置されたシンボルツリーは圧巻であり、館内に広がる木曽ヒノキの香りとともに、来場者から好評を得ています。